



小田原市立芦子小学校学校だより

あしこだより

令和7年度7月号
発行者:石井 美佐子



進んで考え学ぼうとする子・仲間と関わる子・たくましくチャレンジする子

6月に続き、7月も暑い日が多く、毎日のように「熱中症警戒アラート」が出され、屋外での活動を制限せざるを得ないことが多く、子ども達には本当に気の毒でした。いよいよ明日からは、子ども達が楽しみにしている夏休みが始まります。夏休みに入ってから涼しくなる、ということは考えにくいですが、天気や暑さの様子をみながら、長い休みでしかできない経験をしてほしいと思います。9月には、また元気な姿で登校する子ども達と会うことを楽しみにしています。



無関心にならないことが大切～いじめ予防教室から～

学校 HP でもお伝えしましたが、7月14日に、5年生を対象に「いじめ予防教室」を実施しました。「いじめ予防教室」は、小田原市教育委員会の事業で、弁護士の方を講師として開催されているものです。本校は3クラスありますので、3名の弁護士の方が来てくださいました。うち一人は、本校の卒業生の保護者の方でした。

さて、授業は、神奈川県内で実際にあったいじめの事例をもとにしたもので、いくつかの具体的な行為について、それらは「いじめ」に該当するかどうか、該当した場合は「弱いいじめ」なのか「強いいじめ」なのか、ということをグループで話し合いました。

講師の先生からは、一つの行為をとっても「いじめ」と捉えるかどうかや、弱い強いという受け止め方は人それぞれ違うということを知ってほしいこと、また、小さいと思われる行為でも、積み積み重ねていくと、コップの中の水があふれるように、耐えきれなくなってしまうこと、などのお話がありました。そして、友達の間や教室で起こっていることに無関心にならないことも、とても大切だというお話もありました。「遊んでいるだけ」「『いじめ』ではなく『いじり』」と友達が言う場合であっても、そうした行為が見過ごされていくと、その集団全体の感覚が鈍くなっていき、その結果として自分自身も「ターゲット」になることもあるし、重大で深刻な「いじめ」につながる、というお話もありました。いじめの未然防止には様々な視点があるかと思いますが、「他者に対して無関心にならない」ことを、学校でも繰り返し伝えていきたいと考えています。



7月7日の七夕献立です。ポテトもゼリーのカップの中の形も星型でした。

七夕の短冊を書いていたクラスもありました。中には「あしたがもっとよくなりますように」と書いている子もいました。それぞれ願いは様々ですが、みんなの願いが叶うといいなあと、願う七夕でした。

スポーツフェスティバルに向けて

少し先の話になりますが、学校では10月に実施する「スポーツフェスティバル」をどのようにするか、話し合いを始めています。昨年度末に実施した学校評価アンケートの中で、保護者の方から「今後、より明確な目標設定や、子どもたちが自分自身の成長を感じられるような仕組みを取り入れるとよいのではないのでしょうか。」というお声をいただきました。職員の間でも「スポーツフェスティバル」の目的をもう一度捉えなおして、どういう在り方がいいのかを考えていきたいという反省も出ていました。現在も話し合いは続いているのですが、子ども自身がそれぞれのめあてをもって取り組み、集団としても、個人としても成長できるようにすることが大切であると考えています。その上で、今年度は、「なかよし班（縦割り班：異学年で構成する集団）」での種目を増やして、様々な年齢の人たちと協働しながら、それぞれの発達段階に応じた集団への関わり方を学ぶ機会を増やしていく考えです。上学年には、下級生を導く責任感を、下学年には、先輩への憧れの思いを育てたいと思っています。

令和7年5月17日（土）付けの朝日新聞に「変わる運動会」という記事が掲載されていました。その中で、運動会の始まりについて触れている記事がありましたので、紹介します。

日本最初の運動会は、1874（明治7）年に、東京・築地の海軍兵学寮が開いた「競闘遊戯会」とされています。その後、初代文部大臣に就いた森有礼が、児童生徒の体力向上と国民の一体感の醸成のための運動会と兵式体操を推奨し、全国に広がっていきました。

「学校」は当初、農村や漁村にとって有力な働き手である子どもたちを通わせるため、地域からの受けが悪かった。住民の理解を得るため、収穫が終わった後の秋祭りと結びつく形で、運動会が定着していきました。保護者や地域住民に学校を開放する機会に、という枠組みは当時から続くものです。運動会なしで、日本に学校や教育が根づくことはなかったでしょう。・・・（中略）・・・戦後は「見る側主導」とでもいうべき変化が起きます。みんなで楽しむ祭りのような運動会から、住民や保護者は専ら見る側に回りました。・・・（中略）・・・

運動会は社会情勢を色濃く反映します。富国強兵や経済成長といったわかりやすい目標があった時代と異なり、今は運動会も混迷する社会情勢にあわせてか行き先を見失っているように感じます。それでも教育も運動会も、遅まきながらも社会にあわせて変わろうとしていることは、歓迎すべきことだと思います。（スポーツ史研究者の鈴木明哲氏）

芦子小学校の「スポーツフェスティバル」が今の社会に、今の子ども達にあったものになるのかどうか、蓋を開けてみたら「あまり変わらないのでは？」となるかもしれませんが、子ども達の声や思いをききながら、誰もが参加しやすく、また、自身の成長を感じることができるよう「スポーツフェスティバル」となるよう努めてまいりますので、温かく見守ってくだされば幸いです。



わかあし級の夏の作品です。風船釣り、夏祭り気分ですね。

お願い

*夏季休業中の職員の勤務時間は8：30～17：00です。電話や来校者への対応は原則として日直の職員が対応しますが、勤務開始時と勤務終了時には、校舎を巡回しますので、職員室に不在となることがほとんどです。お電話・来校による学校への問い合わせ等は、できましたら、9：00～16：30の間にお願いできればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

*8月12～15日は学校閉庁日です。万が一、至急を要する事件や事故に遭った時には、警察（☎110）や救急（☎119）にご連絡ください。